資料

IUPAC 高分子部会命名法委員会による ポリマーに関係する術語の基本的定義 (日本語版)

鶴田 禎二*

日本語版の作製に当たって

1967 年, IUPAC では高分子関係が部会として昇格し, この部会に命名法委員会が設立された. 1968 年 9 月, トロントで第一回の命名法委員会が開催されて以来, 毎年世界のどこかで会議が召集された. 1975 年 9 月にマドリッドで持たれたのは第八回目の委員会であった. 私は第一回目から正委員として参画し, 現場の化学者としてできるだけ使いやすい命名法になるよう努力を続けてきたつもりである.

上記委員会の活動状況の一部はすでに本誌誌上に三回にわたって報告¹⁾した. このほど, "Basic Definitions of Terms Relating to Polymers" の最終稿が *Pure and Applied Chemistry* に発表された²⁾. もともと IUPAC の高分子命名法委員会は設立以来, まず三つの大きい課題の完成を目標としてきた. その第一が Basic Definitions であり³⁾, 未定稿は第三回目の委員会が終わった時点でまとめられ, 1971 年 2 月 IUPAC の *Information Bulletin* 誌³⁾上に発表された. 1974 年までに各方面から寄せられたコメントなどを参考とし, 内容を吟味して 1974 年 5 月の委員会では最終稿を完成したしだいである.

さて, わが高分子学会には 1963 年以来命名委員会が存在しているが, その下部組織としての SUN 委員会 (委員長 鶴田禎二) は特に IUPAC 関連事項が主務であるので 1973 年 12 月以来, 会合を重ねて IUPAC 委員会における作業の進展に対応してきた.

今回 Basic Definitions の日本語版作製に当たっては, 鶴田の第一次稿に SUN 委員会の各委員が手を加え, 何回も改修を繰り返したものである. いわば SUN 委員会全員の所産による日本語版であることを特にここに記したいと思う. 日本語への訳出は可能な限り直訳を旨としたが, 日本語としてあまりに不自然

になる場合には多少意識したものを採らざるをえなかった.

いずれにしても原文の意味を正確に日本語で表現することに努力してでき上がったものがこの日本語版である. われわれとしては完璧を期したつもりではある. しかし, 予期せぬところに不備の点もあらうかと危惧の念に堪えない. 幸い, 会員諸賢のコメントを待ち, より完全なものへと改修したい. ご協力をお願いするしだいである.

SUN 委員会の委員は次のとおりである.

〈委員長〉 鶴田 禎二 (東大工)

〈委員〉 小沢 丈夫 (電総研)

田隅 三生 (東大理)

田附 重夫 (東工大資源研)

中條利一郎 (東工大工)

寺町 信哉 (工学院大)

永沢 満 (名大工)

三田 達 (東大宇航研)

山田 英 (理研)

日本語版の印刷発表に当たっては, 日本学術会議 IUPAC 研究連絡委員会 (委員長 柴田承二教授) を通じて, IUPAC 当局 (本件担当者, Secretary General: Prof. G. Ourisson; Executive Secretary: Dr. M. Williams) から掲載許可 (1976 年 3 月 24 日付) をいただいた. ここに記して謝意を表明するしだいである.

文 献

- 1) 鶴田禎二: 高分子, 18, 54, 630 (1969); 21, 322 (1972)
- 2) IUPAC 高分子命名法委員会: *Pure Appl. Chem.*, 40, 479 (1974)
- 3) IUPAC *Information Bulletin*: Appendices on Tentative Nomenclature, Symbols, Units, and Standards, No. 13 (Feb. 1971)

* Teiji TSURUTA 東京大学工学部 合成化学科教室
(113 東京都文京区本郷 7-3-1) 教授・工博
Basic Definitions of Terms Relating to Polymers

† 他の二つの課題は, "Nomenclature of Regular Single-strand Organic Polymers" (1976 年最終原稿完成) および "Stereochemical Definitions and Notations Relating to Polymers" (1976 年未定稿出版予定).